

プリント2 解答

ノートA段の本文に、IIの助動詞に二重線を引き終止形と意味(後の選択肢から一つ選ぶ)を左側に書く(例を参考にする)。

ある山寺の坊主、慳貪なりaける、飴を治してただ一人食ひけり。よくしたためて、棚に置き

「けり」過去

置きしけるを、一人ありける小児に食は bせ cず して、

「これは、人の食ひdつれば死ぬる物ぞ。」

と言ひけるを、この児、「あはれ、食はばや、食はばや。」と思ひけるに、坊主他行の際に、棚より取り下ろしけるほどに、打ちこぼして、小袖にも髪にも付けeたりけり。日ごろ欲しと思ひければ、二、三坏よくよく食ひて、坊主が秘蔵の水瓶を、雨垂りの石に打ち当てて、打ち割りておきfつ。

坊主帰りたりければ、この児さめほると泣く。

「何事に泣くぞ。」

と問へば、

「大事の御水瓶を、誤ちに打ち割りて候ふ時に、いかなるご勘当かあらんずgらん」と、口惜しくおぼえて、命生きてもよしなしと思ひて、人の食へば死ぬと仰せhられ候ふ物を、一坏食へども死なず、二、三坏まで食べて候へども大方死なず。はては小袖に付け、髪に付けてはべれども、いまだ死に候はず。」

とぞ言ひける。

飴は食はiれて、水瓶は割られjぬ。慳貪の坊主得るところなし。児の知恵ゆゆしくこそ。学問の器量も、むげにはあらkじかし。

- a 「けり」 過去
- b 「す」 使役
- c 「ず」 打消
- d 「つ」 完了
- e 「たり」 完了
- f 「つ」 完了
- g 「らん」 現在推量
- h 「らる」 尊敬
- i 「る」 受身
- j 「ぬ」 完了
- k 「じ」 打消推量

\*現代語訳をB段に写す。(A)～(P)には、訳を考えて補いなさい。

ある山寺の坊さんで、(A)(者)が、(B)自分一人だけで(C)。(水飴を)十分食べては棚に置き、食べては棚に置きしていたのを、一人いた小児に(D)で、

「これは、(E)と死ぬ物だぞ。」

と言ったのを、この児は、「ああ、(F)、(F)。」と思っていたが、坊さんがよそへ出かけている間に、棚から取り下ろしたところが、こぼして、衣服にも髪にも(G)。常日頃から欲しいと思っていたので、二、三杯十二分に食べて、坊さんが大切にしている水瓶を、雨垂れが落ちる所に据えた石に打ち当てて、(H)。

坊さんが帰ったところ、この児が(I)。

「どうして泣いているのだ。」

と尋ねたところ、

(その児は)「大切な御水瓶を、間違えて打ち割ったものですから、どのようなおとがめが(J)と、悔しく思われて、命を長らえても(K)と違って、人が食べると死ぬと(L)物を、一杯食べても死なず、二、三杯まで食べましたが、(M)。おしまいには衣服に付け、髪に付けましたが、まだ(N)。」

と言ったのだった。

水飴は食べられ、しかも、水瓶は(O)。けちな坊さんは得することは何もない。児の知恵は(P)。学問の才能も、そんなに悪くはないだろうよ。

- A けちで欲が深かった
- B 水飴を作って
- C 食べていた
- D 食べさせない
- E 人が食べてしまうと
- F 食べたい
- G 付けてしまった
- H 割っておいた
- I さめざめ、ほろほろと泣く
- J あるだろうか
- K 意味がない
- L おっしゃられました
- M いっこうに死にません
- N 死にません
- O 割られてしまった
- P すばらしかった

プリント4

\*D段に次の設問を写し、答えも書きなさい。

出典(沙石集

) 作者(無住

) 成立時代(鎌倉時代

)

ジャンル( 説話集

)

- 1、坊主が飴を「ただ一人」食べていたのは、なぜか。  
けちで、欲が深いので、他の人にあげたくなかったので。

- 2、坊主が「これは、人の食ひつれば死ぬる物ぞ。」と言ったのはなぜか。  
他の人に食べさせないため。

- 3、児が、水瓶を割ったのは、なぜか。  
自分が飴を食べた言い訳に使うため。

- 4、児が言った、飴を食べた言い訳を整理してみよう。  
水瓶を割った

←  
どんなに(おとがめ)を受けるか、生きていても(意味がない)と思った。

←  
食べれば(死ぬ)と言われた飴を食べた。

←  
死ねないので(衣服や髪につけた)が、まだ、死なないので泣いていた。

- 5、作者は何に感心しているのか。  
児の知恵